

編集後記



今年の会津盆地の春は4月1日には三分咲き、4月5日には満開になりました。多くの会津若松市民はこんな春は見たこともない。今年の天候はどうなるのか。不安ですね。農作物は無事に育つか。不安な春です。

今号の特別読み物は明治21年に噴火した磐梯山のことで。大惨事です。いまだ約400人の方が災害で地中に埋まったままです。実に無情です。

この噴火で一面泥と水と木材で荒れた裏磐梯を復元した若松の遠藤現夢の物語が今話題になっています。私財を売り、復興に立ち上がりました。多くの人々もその事業に参加しましたが、岩で覆われた自然は回復するにはいならず、植林は思うようになりません。全会津の人々が参加し、喜多方の資産家も資金を提供したと報じています。この時、いち早く見舞金を下賜された明治天皇に、遠藤翁は畏敬の念を抱き、明治神宮の碑を建立しました。東京の明治神宮より先に裏磐梯の明治神宮ができたのです。

今の裏磐梯は、大戦後、米国のため田島慶三氏が観光用に整備しました。観光会津の基本はこの裏磐梯から始まったと思います。

また、「きらりwoman」では会津漆器の蒔絵師・白岩有美さんを紹介しました。会津漆器は時代の波に乗れず、細々と一部の方々が会津の伝統産業を守りついでいます。時代は大きく変わり、生活様式もすっかり洋風化しました。漆器業界の中では、一部の方々が時代を越え会津漆器を守る姿に成功しました。今後の作品に大きな期待をしています。

会津の春は自然が美しく、人の心もおだやかです。豊かな会津を守る人々に感謝申し上げます。

星賢孝さんが、白河の南湖に霧幻峡の舟を持ち込み、白河の観光に一花咲かせた4月です。

もう5月です。自然は急いで山野を飾っています。皆さん、野山も活気溢れる5月は忙しいですよ。

「裏磐梯の『明治神宮』」は千葉茂樹さんの寄稿です。誌面を借りて感謝申し上げます。

(阿部隆一)

【今月の表紙】御殿場公園の花しょうぶ(写真/喜多方観光物産協会)

2023年5月号
VOI.530

会津嶺

発行所/あいつね情報出版(有)

〒965-0844 会津若松市門田町一ノ堰字村西 580-11
TEL 0242-27-3130 FAX 0242-26-5603

e-mail ▶ aizune@knpgateway.co.jp

HP ▶ <https://knpgateway.wixsite.com/aizune>

発行人/新城 彰弘
編集主幹/阿部隆一

【スタッフ】

編集委員/新城伸子 制作/帰ってきたすてるすぽん
会津嶺サポーター/岡田友子・宮森光子・稲村久美
前田智子・鶴賀イチ・菊地べろ

営業/佐瀬俊夫・江川慎太郎・目黒圭
齋藤尚希・鹿目恵子

定期購読
ご予約
受付中

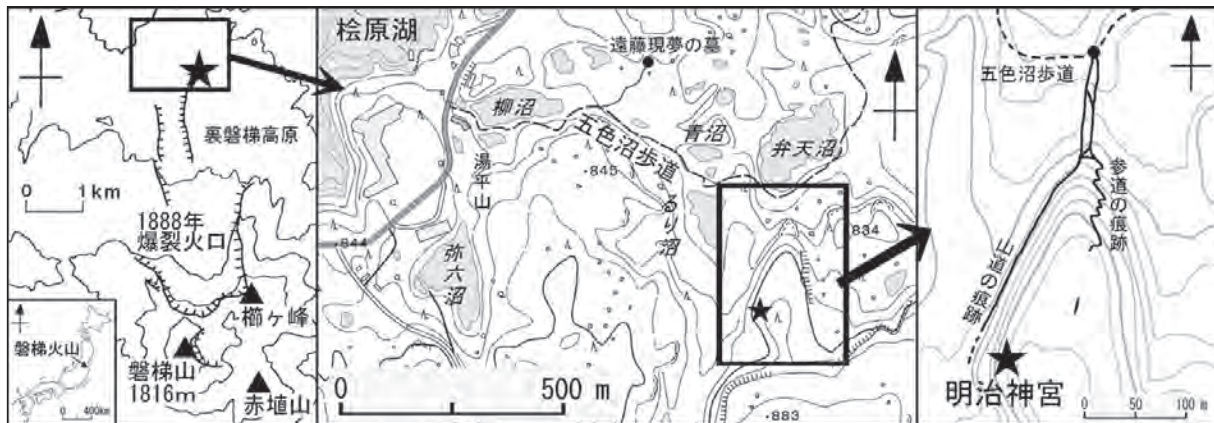
定期購読の詳しい方法や資料請求などは
左記までご連絡下さい。
会津嶺は宝嶺会会員店にてお求めになれます。



5
2023
MONTHLY MAGAZINE
FOR AIZU
No.530

きらりウーマン 白岩有美さん
会津城下町料理指南「豆腐田楽」
寄稿 裏磐梯の「明治神宮」

図1 磐梯火山の概略図と「明治神宮」の位置。国土地理院、2.5万分1地形図「磐梯山」、1万分1火山基本図「磐梯火山」を使用した



現在の磐梯火山は、磐梯山（1816m）・榊ヶ峰・赤埴山の3つの山から構成されます（図1）。1888年までは山頂部の北側に小磐梯山こばんだいきんがありました。同年7月15日、山頂付近で水蒸気爆発（マグマが直接関与しない水蒸気の圧力による爆発）が起き、

磐梯山1888年の噴火

以下、順にご紹介します。なお、この内容は地質学の学会誌「地球科学」2023年1月号に掲載されたものです。

「明治神宮」と聞けば東京・代々木の「明治神宮」が有名ですが、裏磐梯には東京の明治神宮ができる前に「明治神宮」が建っていました（写真1、図1）。これを建てたのは、会津若松市の遠藤現夢げんむです。彼は、磐梯山1888（明治21）年噴火の後、私財を投げ打って裏磐梯の復興に尽力し「明治神宮」を建立しました。しかし、月日が流れ、彼の業績とともに「明治神宮」も忘れ去られ、荒れ果ててしまいました。現在、磐梯山周辺で「裏磐梯の明治神宮はどこですか」と尋ねても、誰も知りません。

遠藤現夢（写真提供／磐梯山噴火記念館）

寄稿

裏磐梯の「明治神宮」

——今も漂う遠藤現夢の魂——

千葉茂樹（福島自然環境研究室）



※1 阿部武(2012)「裏磐梯の植林と遠藤現夢」(私家版) 136p

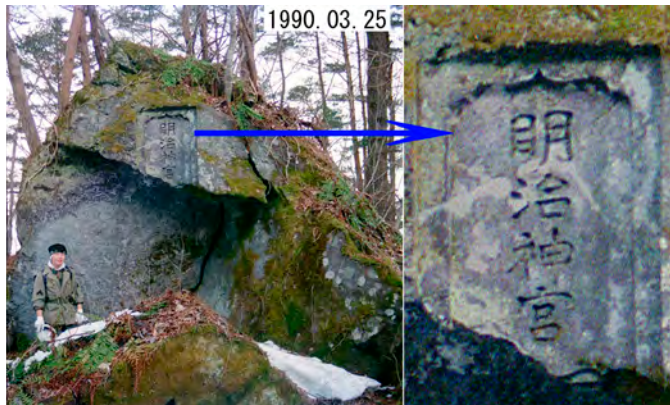
※2 馬場篤(1987)「裏磐梯・緑化のたどった跡」(会津生物同好会誌25) 60-66p

※3 千葉茂樹・木村純一(2001)「磐梯火山の地質と火山活動史-火山灰編年法を用いた火山活動の解析」(岩石鉱物科学30) 126-156p



写真2 1888年噴火の惨状の写真。噴火直後からこのような写真が多数売り出された(著者蔵)

写真1 遠藤現夢が作った開山の碑「明治神宮」。崩落前の姿(1990年3月25日撮影)。人物は高見澤利光氏で、肖像使用許可取得済



その後小磐梯山が崩壊し、構成していた溶岩などが北麓を中心に流れ下りました(写真2)。北麓の溪谷は岩と泥によって埋められ、現在の裏磐梯ができました。この噴火で500人弱の人々が犠牲になりました。ただ当時は、住民や湯治客の把握が現在ほど厳密ではなく、正確な人数はわかりません。また、見つかった遺体は81体で、約400人が未だに大地の下に眠っています。

し、6月19日にその土地が政府から払い下げられました。

現夢の思いと開山の碑「明治神宮」

明治天皇は、磐梯山噴火災害の直後にいちはやく見舞金を下賜されました。遠藤現夢は、この出来事に深い感謝と畏敬の念を抱き、植林開始前に「明治神宮社」を建て植林の成功を祈願し、植林の成功後には開山の碑「明治神宮」を建立しました(写真1)。この開山の碑「明治神宮」は、弁天沼の南にある舌状地形の上に建っています(図1)。この台地は、建立のころは眺望がすばらしく、南に磐梯山、西に瑠璃沼、北に弁天沼その奥に吾妻連峰など裏磐梯一帯が一望できました。なお、植林開始前に建てたとされる「明治神宮社」は、どういった建物だったのか、どこにあったのかの記録はありません。

残念なことは、開山の碑「明治神宮」の建立年が、1919(大正8)年なのか1920年なのかわからないことです。史料では「1919年6月19日に政府か

遠藤現夢の植林

現在の磐梯高原は、全国的にも有名な観光地ですが、噴火直後は岩と泥の荒原でした。日本政府から「植林を成功させたら、その土地を安く払い下げる」との話があり、人々は噴火の直後から動き出しました。会津若松や喜多方の資産家が植林に入りました。しかし、大半の人々は破産して裏磐梯を去りました。原因は、土地が岩や泥で肥料分がなく、かつ冬は極寒で、植林した苗木が枯れてしまったためです。この中で、植林に成功したのが遠藤現夢でした。彼が中心となった仲間5人は、明治の終わり頃に植林に入りました。彼らは、はじめに道のなかつた裏磐梯に資材搬入用の道を造りました。現在の五色沼歩道(図1)は、彼らが造った道の一部です。彼らは、それまで失敗した人々の例から植林の方法を考え直しました。そして、苗木は寒冷地から購入し、実際の植林では苗木数本を束にして植えて根付かせました。1919(大正8)年、彼らは政府に「植林の成功」を報告

ら土地が払い下げられ、開山の碑「明治神宮」を建立した」とありますが、建立日は記載されていません。ただし、東京代々木の明治神宮の創建が、1920年11月1日ですので、これよりは裏磐梯の方が早いようです。また、この石碑とは別に、五色沼歩道の近くには遠藤現夢の墓(巨大な自然石)があります(写真5、図1)。

著者と開山の碑「明治神宮」

私は、1979年から磐梯火山の地質調査を行ってきました。わかりやすく言えば、けもの道などを使って通常人が入らない磐梯山の奥深くまで入って調査をしました。1990(平成2)年3月25日、調査中に偶然、開山の碑「明治神宮」に巡り合いました。この日は、弁天沼の南、瑠璃沼の東にある舌状地形の調査に行きました(図1)。この台地の上に登ると、何の変哲もない長径約6m、高さ約2mの安山岩の岩がありました。これが開山の碑「明治神宮」の背面でした。この岩の南側を回り若干下りながら東側に出ると、平坦な広場がありました。



写真3 参道の写真
(1990年3月25日撮影)
2021年でも薄っすらと
わかる

振り返って岩を見上げると「明治神宮」と彫られていました(写真1)。さらに、「明治神宮」と彫られた岩の下の部分はなくなっていました。史料によると、下半分は1964(昭和39)年の新潟地震で崩落したそうです。さらに、石碑の東側は岩がほとんどない平坦な広場で、大きな木や草はほとんどありませんでした。その石碑から北東方向へ歩いて、舌状地形の北北東端に出ると、つづら折れの「参道」が斜面の下の方に続いていました(写真3)。図1の右図は、私が2021年4月2日と7日に、明治神宮の位置・参道の痕跡・山道の痕跡を調査して地図に書き込んだものです。

なお、「明治神宮」の東側の広場は、岩がほとんどなく平坦地で、人為的に岩を取り除いたものと推定されます。可能性ですが、この広場に植林開始前に建てた「明治神宮社」があったのかもしれない。

刻字「明治神宮」の特徴

岩に彫つてある刻字「明治神宮」も特徴的です(写真1)。私た



写真4 明治神宮の現状と飛散した岩片
刻字「明治神宮」の部分が崩落し飛散している(2021年4月2日・7日撮影)

記録して
いました。
2020
年の冬、こ
のデータ
から地図
上で「明治
神宮」の位
置を確認
し、雪が解
け始めた
2021
年4月2
日に現地
に向かい、

石碑「明治神宮」に再び巡り合うことができました。しかし、残念な事に石碑の刻字部分「明治神宮」は崩落し、その岩片は周辺に飛び散っていました(写真4)。おそらく、2011年の東日本大震災で崩落したと考えられます。また、参道も、1990年には明瞭に残っていましたが、2021年には比較的明瞭な舌状地形の斜面でも薄っすらとわかる程度になり、台地の上ではほとんど消えて歩けない状態でした。

ちが普段使っている常用漢字とは違うところがあります。「明」は、「日」偏ではなく「目」偏です。「宮」は、「口」と「口」に間に「ノ」がありません。東京の明治神宮も、創建当時の文字には「ノ」がありませんでした。明治神宮のWebサイトでは、「口」は建物を示し「ノ」は廊下を指す。文字ができた当時の中国には建物を結ぶ廊下がなかったのが、明治時代の『宮』の字には「ノ」がない」と説明しています。

石碑「明治神宮」の現状

私は1979年から磐梯山の地質調査をしてきました。その磐梯火山の地質学的総括論文が2001年に学会誌に掲載されました。それ以降、私は調査中に巡り合った開山の碑「明治神宮」やこれ以外にも多数見た遺構が気にかかり、何度か五色沼歩道周辺の調査を行いました。しかし、樹木が大きく育ち、更に下草なども繁茂し、これらの遺構に出合うことはできませんでした。幸いなことに、私は地質調査をした毎日に踏査ルートなどを細かく

その後の遠藤現夢

現夢は、植林の成功後、今度は裏磐梯の将来を夢見て、磐梯山の山頂付近の出湯から弥六沼付近まで木管で温泉水を引きました。この事業は、裏磐梯の発展には必要なことでしたが、逆に大きな災難となりました。彼が中心となった植林組合の条文に「温泉事業」がなかったことから、資金の目的外使用の責任を問われ、裏磐梯から身を引かざるをえなくなり、¹⁾彼は、裏磐梯から去るにあたり、開山の碑「明治神宮」で無念の涙を流したのではないでしょう。私の脳裏に「開山の碑『明治神宮』が焼き付いて消えなかったのは、「現夢の無念の魂魄」が今でもこの地に漂っている為なのかもしれません。

30年越しの発表となった理由

私は、いろいろなものに興味があり、地質調査の際にも出合った多くの物の記録を残してきました。しかし、当時の地質学の常識では、本稿のような遺構の調査は「余計なもの」「してはいけない



著者:千葉茂樹(ちばしげき)。福島自然環境研究室代表。1958年生まれ。猪苗代町在住。岩手県一関市出身。専門は火山地質学、特に磐梯火山。この他に、「富士山、可視北端の福島県からの姿」などの多数の論文がある。2011年3月の福島第一原発事故の際、福島市渡利に居住していたことから、専門外の放射性物質による汚染の研究を始め、現在も継続中である。

磐梯山の論文の一覧 <http://wattandedison.com/Chiba1.html>

原発事故関係の論文などの一覧 <http://wattandedison.com/Chiba2.html>

「富士山、可視北端の福島県からの姿」:http://www.wattandedison.com/Chiba_2012_Fujisan.pdf

もの」とされていました。近年、世界的に文化遺産が注目されるようになり、日本でも2014年に「人間と地質学の関わり」の新しい研究分野「文化地質学」が誕生しました。このような経緯で、30年ほど眠っていた資料を再構成し、今回発表となりました。

なお、私は磐梯山の地質調査の際に、今回のような遺構を数多く見えています。今後も順に発表していく予定です。

最後に

私は地質調査の際に、偶然にも遠藤現夢が建立した明治神宮に巡り合い、そして私の心に深く刻まれました。現夢は、裏磐梯の復興を夢見て植林し成功し、その思いを込めて明治神宮を建立しました。そして今、彼の思いや業績は、長い年月の中で忘れ去られようとしています。この原稿を読まれた皆さん、どうぞ遠藤現夢の業



写真5 遠藤現夢の墓(位置は図1参照)

績を見つめ直し、よろしければ裏磐梯に行つて彼の足跡を再確認してください。

また、私は、今年2月に北塩原村役場に明治神宮の論文を送り、同時に明治神宮および参道を整備するようにお願いしました。さらに、可能であれば、崩落してしまつた明治神宮の復元もお願いしました。これらの遺構が整備されて公開されることを願っています。なお、この原稿を読まれて、現地へ行こうと思われる方がいるかもしれませんが、ただ、石碑周辺にたどり着くのは容易ではありません。私のように山歩きに慣れていないと大変危険です。よく考えて行動されることを願います。